

前 回 定 例 会 以 降 の 動 き

柏崎市危機管理部 防災・原子力課

1 安全協定に基づく状況確認【8月7日】

新潟県、刈羽村とともに、安全協定に基づく発電所の月例状況確認を実施しました。

〔主な確認内容〕

- ・ 発電所大湊側に設置されている、暖房の熱源などに使用する蒸気を供給するためのボイラー（補助ボイラー）から蒸気が漏えいした事案について、原因の調査状況の説明を受け、現場を確認しました。
- ・ 管理区域内の冷却装置の冷媒に使用していたフロンを、発電所構外で廃棄処理した際、保安規定上必要な搬出前の放射線測定及び記録確認が実施されていなかった事案について、原因と対策について説明を受け確認しました。
- ・ 7月に発生したけが人発生事案について、それぞれの事案の原因と対策の説明を受け、現場を確認しました。

以上

令和8(2026)年9月2日
地域の会定例会資料

柏崎市の学校等における保護者への引き渡し訓練について

(8月定例会議題「新潟県原子力防災訓練について」追加配布資料)

柏 崎 市

令和 2（2020）年度

1. 実施日時及び参加人数

10 月 20 日（火）

中通小学校 児童 43 人、職員 9 人

荒浜保育園 園児 29 人、職員 11 人

2. 訓練で見た課題

- ▶ 保育園では小中学校の P T A メールのようなシステムが無いため、電話により緊急連絡を実施したが時間を要した。迅速な対応が求められることを実感した職員も多く、保育園においても P T A メールのようなシステムの検討が必要。
- ▶ 学校に安定ヨウ素剤は備蓄しているが、学校での配布方法が未定のため引渡し訓練に併せて配布は実施しなかった。今後の引渡し訓練では同時に配布も行えるよう早急に検討が必要。

令和3（2021）年度

1. 実施日時及び参加人数

11月9日（火）小学校での保護者引渡し訓練

	児童			職員			合計	バス乗車
	引渡し	バス避難	計	教職員	バス避難	計		
荒浜小学校(5,6年生)	52	13	65	22	22	22	87	35
大洲小学校(全校)	53	17	70	10	10	10	80	27
合計	105	30	135	32	32	32	167	62

11月11日（木）保育園での保護者引渡し訓練

	園児			職員			合計	バス乗車
	引渡し	バス避難	計	教職員	バス避難	計		
中通保育園	13	7	20	8	2	10	30	9
西部保育園	42	12	54	14	2	16	70	14
合計	55	19	74	22	4	26	100	23

2. 訓練で見えた課題と対策

・学校等における安定ヨウ素剤の配布方法について

【課題】 小学校においては市職員から避難用バスに乗車する教職員に避難する児童数分の安定ヨウ素剤を渡した。公立保育園やバス避難集合場所に指定されている学校では災害時に市職員が配置されているため、安定ヨウ素剤を配布することができるが、一時集合場所に指定されていない県立学校や私立保育園では配布できる者がいないため、対策を検討する必要がある。

【対策】 新潟県に報告し、対策を求める。

・保護者の防災意識の醸成について

【課題】 保護者への連絡は、事前に登録してある連絡先へのメール連絡を基本として行われた。訓練では、メールアドレスが変更されており、メールが届かなかったケースやメールを確認しなかった保護者も見られた。災害時の学校等の対応について、さらに周知を図る必要がある。

【対策】 学校等での原子力防災訓練を継続していくとともに原子力災害時の避難行動に関する周知を継続していく。

令和4（2022）年度

1. 実施日時及び参加人数

10月25日（火）学校等の保護者引渡し訓練（UPZ 北条小学校、鯖石保育園）

	児童・園児			職員			合計	うちバス乗車
	引渡し	バス避難	計	本部等	バス避難	計		
北条小学校	65	20	85	2	11	13	98	31
鯖石保育園	20	7	27	1	4	5	32	11
合計	85	27	112	3	15	18	130	42

10月26日（水）学校等の保護者引渡し訓練（PAZ 日吉小学校、松波保育園）

	児童・園児			職員			合計	うちバス乗車
	引渡し	バス避難	計	本部等	バス避難	計		
日吉小学校	110	25	135	2	7	9	144	32
松波保育園	55	26	81	1	15	16	97	41
合計	165	51	216	3	22	25	241	73

11月8日（火）学校等の保護者引渡し訓練（PAZ 県立はまなす特別支援学校）

	児童・生徒				職員				合計	うちバス乗車	うち福祉車両
	引渡し	バス避難	福祉車両	計	要員等	バス避難	福祉車両	計			
はまなす特別支援学校	50	18	2	70	3	13	3	19	89	31	5
合計	50	18	2	70	3	13	3	19	89	31	5

2. 学校等の保護者への引渡し訓練

No.	実施	意見等
1	小学校	文章では理解しきれていない部分もありましたが、実際に動きながら訓練することで、具体的に動きを確認することができ、有意義な時間であった。
2	小学校	引き渡しの動線を一方通行にしたことで、スムーズに流れた。
3	小学校	受付準備は訓練で事前にしっかり物品の準備をした状態だったけれど、いざという時にその準備がどれだけできるか。 全職員で物品の所在を把握しておく必要があると思う。
4	小学校	いざという時に職員全員がいるとは限らない。 どの役割を優先すべきか、兼任でできる役割は何か等整理しておくとい。
5	小学校	保護者やその家族への周知について、今回は事前にお便り等で引き渡しの方法をお知らせしてあるにもかかわらず、家族間での連絡・打ち合わせの不足がみられた。PTAメールを受信するのは保護者で、迎えは祖父母のケースも多い。実際には、もっと混乱することが予想される中、安全に確実に引渡しができるようにもっと知らせていかなくてはいいのかなと思う。
6	小学校	バスで逃げるとき、自分も高学年も帽子をかぶっていなかった。放射線避けるために必要であったと反省している。
7	小学校	職員の動き一覧があったことで、自分が何をしたらいいのかがよく分かった。もう少し簡単なものでもよいのであると助かる。

8	小学校	自分のクラスでは自分の事前指導が足りず、放射線についてうまく説明できなかったため、緊張感が地震火事に比べてなかったように思える。私自身がより放射線について知り、低学年のわかる言葉でどんな危険性があるのかを説明できればよかったと反省している。
9	小学校	見えないものを相手に避難するのだから、子どもたちもイメージしにくかったと思う。事前に東日本地震による原発事故の映像などを見ておくことも一つの方法かと思う。
10	小学校	屋内避難、保護者への引き渡し、避難バスによる避難と、今回の訓練内容は適切であり、流れも分かり易く良かったと思う。
11	小学校	まずやってみたことが、一番の成果だと思う。試してみて分かることが多かった。
12	小学校	実際の事故では、家族を迎えに行くなど児童について行けない教職員もいると思う。
13	小学校	全員強制的にバスにのるのか、はっきりさせてほしい。
14	小学校	職員も分からないことだらけだが、保護者もよく分からない現状である。学校にいるときに事故が起こったらどういう動きになるのか、市の方で周知してほしい。その際学校の動きを一方的に決めないで、学校と相談して決めてほしい。
15	小学校	引き渡しの練習として体育館で行い、落ち着いてできてよかった。職員であっても、人数は確実にかぞえないといけませんが、出張に行かれた先生を数に入れてしまった。
16	小学校	実際に起きてしまった場合、パニック状態だと思うが、誰が保護者と帰るのか、バスで避難をするのか、しっかりとしたチェックが必要だと思う。保護者の方たちもしっかりと報告をしてくださって協力的だった。
17	小学校	打ち合わせをしながら、担当者がしっかりと準備し、ねらいを十分に達成できた訓練となった。市の防災担当や消防など大勢来られていたので、各立場の方からも、お話しただいても良いように思った。
18	小学校	天気が良かったので寒くなかったが、この時期は寒くなる可能性もあるため日程の検討が必要だと思う。
19	保育園	お迎えまでの待機時間が非常に長く、その時間の過ごし方について課題があると感じた。
20	保育園	バス避難の時、未満児はオムツを使用しているので良いが（非常持ち出しにオムツも入っている）3歳以上用に携帯トイレのようなものがあると良い。（実際の時は渋滞なども考えられる。非常用の携帯トイレは園での準備もしていない。）
21	保育園	実際の時は渋滞でお迎えに来られない方が増えることが予想される。しかし、バスに乗ってしまうと親子で会えない時間が増え、子、親、職員ともに不安が大きくなる。できる限り、園で確実に引渡したいと感じた。

22	保育園	落ち着いて対応することができたが、訓練と理解していてもやはり慌ててしまうので、日頃の訓練や情報共有が大事だと痛感した。
23	保育園	原子力災害が起きた時にしなくてはならないことを明確化しておく必要があると思った。（例：園舎の中に避難する、カーテンや窓を閉める、換気扇は止めるほか、役割分担や情報伝達の方法、避難先まで行く職員は誰なのか等）
24	保育園	保護者へは連絡網を使って情報を流したが、いざという時には動揺して文章が思い浮かばないと思うので、災害時対応のための文章が用意してあると良い。また、文章は短く簡潔な方が伝わりやすいと思った。
25	保育園	バスに乗せる際に園児の点呼を取り忘れた。引き渡し名簿と照らし合わせながら園児の人数把握を徹底すべきだった。
26	保育園	迅速な対応が求められる中で、現在使用している「引き渡しカード」は使いづらいと感じた。
27	保育園	普段はオムツをはかない大きい年齢の子でも、遠方まで避難することを考えると園用のオムツを準備する必要があるかもしれないと思った。また、園用の着替えやバスタオル、毛布などもある程度はバスに持ち込むことが必要だと思った。
28	保育園	今回、0・1・2歳児は参加しなかったが、災害時は全員が対象となるため、必要物品や大人の動きについて、職員間で話し合い周知しておく必要があると思った。
29	保育園	今回は原稿があったため、落ち着いて電話対応することができた。訓練は経験することが大事なので、落ち着いて参加するためにも原稿があるととても助かる。

3 訓練で見えた課題と対策

・学校等における資機材の配備について

【課題】引き渡せなかった児童・園児のバスによる広域避難が渋滞等により時間を要した場合に備え、携帯トイレやオムツ、毛布等を持ち込む必要がある。

【対策】新潟県に報告するとともに学校等への避難用資機材の配備を検討する。

・学校等における原子力防災の実施について

【課題】原子力災害時に対応する教職員に対して、原子力災害の特殊性や避難の方法をもっと周知していく必要がある。

【対策】学校等に対して原子力防災講座の開催について提案する。

令和 5（2023）年度

1. 実施日時及び参加人数

11月8日(水)、9日(木) 学等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	教職員	教職員 (バス乗車)	計		
横原小学校	11月8日	145	13	158	3	18	3	24	182	16
新道小学校	11月9日	73	92	165	3	1	16	20	185	108
合計		218	105	323	6	19	19	44	367	124

10月31日(火)、11月1日(水) 学校等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	保育士	保育士 (バス乗車)	計		
はらまち保育園	10月31日	54	30	84	5	2	12	19	103	42
高田保育園	11月1日	38	28	66	2	5	10	17	83	38
合計		92	58	150	7	7	22	36	186	80

2. 学校等からの主な意見等

No.	小・保	意見等
1	はらまち	子どもたちが安心して待てるように声を掛けることができた。
2	はらまち	兄弟関係が同じバスに乗ったことで下の子が安心できていた。
3	はらまち	バスで降りたところに迎えに来てもらうのをしてみたい。
4	はらまち	その都度、人数確認や誰が帰っていないかなどをチェックして職員間で報告し合えて良かった。
5	はらまち	避難バックの中に乳幼児のミルクやおやつ等の準備まで気づかなかったが、今回のことでそこまで確認することができて良かった。
6	はらまち	クラス担任以外に玄関に職員がいたことで、バス乗車の間際のお迎えにもスムーズに対応できてよかった。
7	はらまち	訓練の放送後、すぐ窓をしめ、人数確認を行うことができたので、あらかじめ役割を決めておくといいと思った。
8	はらまち	市役所の方からいただいた訓練の流れをみて、職員の動き、園児の動き、担任、フリー保育士の役割分担をかき出し、職員間で何度か確認があった。準備がよくできたことが良かった。実際災害がおきたときのことを想定し、子どもたち、職員共に真剣に参加できた。保護者も訓練のために仕事を切り上げ迎えにきてくれた方もいて協力にありがたく思った。訓練を通し、保育園出入口の一方通行、園児の雨具（マスク）を常にカバンに入れておくことも再確認できて良かった。

No.	小・保	意見等
9	はらまち	事前に職員全員での打合せが行われて、一人一人の動きを把握できてよかったです。
10	はらまち	レインコートを着る時に困っている子どものところにフリーの先生が補助に入る ことができよかったです。
11	はらまち	待ち時間が長かったが、防災に関する紙芝居を読み退屈にならないようにできたのは良かった。
12	はらまち	実際に訓練ができたことで流れだったり、動きだったりのこまかい所まで確認できたのが良かった。
13	はらまち	普段行事の時駐車場が混み合わないよう、玄関に入ってくる前にマイクで呼んでスムーズに引き渡しができること。
14	はらまち	出入口を一方通行にしてあること。（今後も呼びかけ徹底できるようにしたい）
15	はらまち	災害の際に小さいクラスは極力オムツがいいと思った。トイトレ中の子どもたちは何時間もバスに乗ってられない。
16	はらまち	メールを見ていない人への電話連絡が実際に多く出てきて大変だと思った。
17	はらまち	雨具を用意していない子もいて、訓練がなくても常にリュックの中に入れてもらうよう保護者にもお願いするべきだと感じた。
18	はらまち	午前中や給食時など、他の時間帯での訓練はどうか。いろいろな時間で試すのもよいと思う。
19	はらまち	雨具や長袖、長ズボン、帽子を身につけるのが暑いので、夏には訓練が子どもにとって厳しい。実際には季節も関係ないであろうし、命を守る事が優先なのだろうが。待機場所や給水などの配慮が不可欠。
20	はらまち	保護者の迎え時、車の一方通行が徹底できていなかった。周知不足。
21	はらまち	誰がバスに乗るのか、人数だけでなくメンバーも全職員で周知するのが大変だと感じた。
22	はらまち	今回は事前に誰が訓練に参加して、誰が参加しないかわかった状況での訓練だったので引き渡しもスムーズにできたが、本番はそうもいかないの で、人数把握や引き渡しの注意点、バスでの避難になったらその子や家族への対応をもう一度自分でも理解をしたいと思います。
23	はらまち	今回は避難先まで行ってないが、行った先でのことが心配
24	はらまち	雨具の着脱、人数確認など担任だけでは間に合わないため、緊急時の役割分担

25	はらまち	実際に災害が起きたときに保護者に受け渡す時、子どもにくつをその都度 はかせている時間がないのではないかと感じた。迎えが来ないとしても室内 で外履きに履き替えていたほうがスムーズなのかもしれないと思う。
26	はらまち	職員の家族の避難が気になる。
27	はらまち	職員で他園にお子さんを預けている場合、そちらへ迎えに行かなくてはなら なくなるが、どこまで自分の園の役割をこなして退勤し、残った職員だ けでどう動くかを考えておかななくてはならないのではと、本当に事故が起 きた時のことを想定するとそういう事まで心配になる。
28	高田	子どもたちはクラスで待機し、引き渡しの時に、呼びに行く役割の職員が 2人いてスムーズだった。
29	高田	バスに乗って避難する子ども達は遊戯室から外へ移動し、保護者の引き渡 しは玄関で行ったのでスムーズに避難をすることが出来て良かった。 放射性物質という目に見えない者に対する避難であることを意識し動いて みることで、本当に災害が起きた時の怖さをイメージすることができ、訓 練に参加でき良かった。
30	高田	園オリジナルのシナリオも作って訓練に参加した。情報がしっかり入って くるまではむやみに園児を集めて大人数の集団にせず、クラス単位での保 育を続けることで混乱を防ぐ。
31	高田	トイレに連れていく、カラー帽子をかぶせるなど、園独自の細かな配慮は 必要。
32	高田	地震→原子力災害の場合の訓練は必要。
33	高田	引き渡し受付とバスに乗車する子の避難口をわけたことで混乱とまちがい を避けられた。
34	高田	さくら連絡網にある程度送信文のひな形を作っておく必要はある。
35	高田	水と食料の運搬方法について
36	高田	職員同士での情報共有をしっかりと行うことの大切さを改めて知った。
37	高田	放射性物質がなぜ怖いかなどの子どもに伝えることが難しいと思った。不 安を感じる子どもたちにどのようにどの程度まで伝えるべきか？
38	高田	本当に事故が起こった際はもっともっと色々なことに時間がかかるという 意識が職員自身に欠けている。（情報が入ってきにくい、バスの到着時刻 は交通渋滞で遅れる、保護者の迎えも遅れるなど）想像力をフルに働かせ ながら対応する必要がある。
39	高田	緊急時に引き渡しカードの形状は使いにくく、一覧表状のもので対応して いる。カードの内容が全て一覧になるよう表の改訂が必要。

40	高田	職員のヘルメットがない。
41	高田	子どものマスクのサイズの確認
42	高田	玄関に出す表示（地震と水害の際の避難先表示しか作っていなかった）
43	高田	各クラスで待機する時間が長く、周りの様子が見えなくて不安だった。もう少し放送をこまめに入れてもらえると良かったと思う。
44	高田	持ち物の再確認（必要物品、分担）→バスに乗る際に1号車と2号車に分かれたが、安定ヨウ素剤は乗車人数分ごとに分けて持っておらず、ひとまとめになっていた。車中で服用指示が出た場合に困る。本当に持ち出す必要のある書類を精査する。（重すぎて持ち出すのが大変。子ども優先にしたいため。）
45	槇原小	実際に想定して、緊張感の中で取り組めて良かったと思います。
46	槇原小	職員の役割分担の細分化ができていた。
47	槇原小	実際に訓練で動いてみるのが重要。紙面だけではやはり分からないことが多い。
48	槇原小	子どもたちの動きがスムーズであった。
49	槇原小	原子力災害に関わる避難方法（マスク、帽子、手袋の着用、カーテンや窓を閉めるな）を理解できた。保護者への引渡し訓練を積み重ねたことでスムーズに行うことができた。
50	槇原小	カーテンを閉める、窓や換気扇も・・・など細かいことがわかってよかった。市の防災無線も本部に持っていくなど校内の動きを確認できたことがよかった。 車両と人身、車両同士の接触事故が無い様にと駐車スペースや位置を検討し、1台ごとに指示をして、事故なく終了できた。（誘導車両約160台）
51	槇原小	校内での引き渡しを再度確認する。
52	槇原小	悪天候の際の保護者の迎え方を想定する必要があると感じた。
53	槇原小	火事・地震災害での引渡しは、近隣家庭は徒歩で迎えに来ることになっているが、原子力災害の場合は、全家庭、車での迎えになる。そのため、今まではさほど渋滞はなかったが、今回は春日通りまではなかったものの学校前道路に列が出来た。渋滞が出来るのは仕方ないが、車の寄せ方が全学校で統一されているとよいと思った。Ex) ハザードをつけ端に寄る等
54	槇原小	降雪時、車の乗り入れ場所はない。道路に渋滞は避けられない。校門前を通るドライブスルー方式になるか。

55	槇原小	今回の引渡し訓練では、保護者がわりと早く迎えに来たと思う。実際の災害時にはもっと時間がかかると思うし、バスでの避難児童が増えるのではないと思う。槇原小の立地上、道路がせまく、交通渋滞が起きることは予想されることが課題だと思う。
56	槇原小	慣れていないのもあり、保護者への引き渡しでバタバタしてしまう。カードを持ってこなかった保護者と子どもがどこへ下校するのか書く用紙があるとよいと思いました。
57	槇原小	本当に原発事故発生し、保護者の迎え車両が集中し、誘導員も居ない状態の時に事故なく、保護者同士がゆずり合い駐車や歩行移動ができるのかどうか心配の面がある。
58	槇原小	市とどのように連携をするかが分かり、大変有意義だった。何年かに一度は継続して行う必要があると感じた。防災ガイドブック原子力災害編（R5.10月改訂）がとても役に立つと感じた。家庭への啓発も行う。
59	槇原小	実際に災害が起きた時、避難用のバスがスムーズに配車されるかが不安（台数の確保）
60	槇原小	勤務をしている職員も市内在住者は我が子を迎えにいく場合も出てくる。少ない人数でも落ち着いて児童を安全に避難誘導できるよう訓練は今後必要である。有意義な訓練でした。ありがとうございました。
61	槇原小	冬場、雨天時、悪天候時の動きに対しての対応を考えたら良いと思う。 今回の訓練で保護者も全体の流れは理解出来たと思うので、次回案内標識は最低限のもの（外・内）とし、誘導員なしで引渡し訓練を実施してみる必要あると思います。
62	槇原小	担当部内ごとのマニュアルを作っておく必要有り。
63	新道小	今回初めての参加だった。災害が起こった際、引渡し、バス乗車・避難のイメージをつかむことができた。
64	新道小	避難までの手順、役割分担等を理解することができた。今後に生かしたい。
65	新道小	避難訓練は、火災、地震・津波、不審者対応のみで行ってきたが、今後は原子力災害も含め、複合的な避難訓練の必要性を確認できたよい機会となった。
66	新道小	自分が住む地区における原子力防災訓練への参加が必要だと感じた。参加してよかった。
67	新道小	今後の引渡し訓練に活かされることが多かった。今回の訓練を参考に、当校の引渡し訓練の見直しを行っていく。

68	新道小	今回は、タイムスケジュールがある程度決まっていたので、保護者の早めに引渡しに来られていた。実際に起きた場合、どのような対応になるかについて不安が多い。
69	新道小	引渡し中止後に保護者が来られたときの対応はどのようにしたらよいのか。バスが来るまでの間であれば引渡しは可能なのか、それとも連絡通り中止なのか。不明確な部分が多々ある。
70	新道小	地域住民、保育園・中学校との連携は必要ないのか。実際に起きたことを考えると、地域全体で行うことも必要なのではないか。
71	新道小	子を持つ職員の対応はどうなるのか。職場優先？家庭優先？
72	新道小	11月はいろいろな行事が重なる月である。もし可能であれば、前年度のうちに引渡し訓練の日程候補日を示していただきたい。
73	新道小	今回はメールでのやりとりが中心だった。もう少し対面での打合せも必要であると感じた。

3. 訓練で見た課題と対策

・継続した訓練について

【課題】原子力災害を想定した引渡し訓練を継続して行い、未実施の学校においても実施していく必要がある。

【対策】まだ実施していない保育園・学校等に訓練への参加を呼びかけ、順次訓練を行っていく。

令和 6（2024）年度

1. 実施日時及び参加人数

日程	訓練時間	訓練会場	園児・児童	教職員
10 月 22 日 (火)	15:20～16:55	北鯖石保育園	45 人	20 人
10 月 24 日 (木)	13:30～15:00	鯖石小学校	40 人	14 人
	15:10～16:55	にしやま保育園	45 人	13 人
10 月 26 日 (土)	11:00～12:20	二田小学校	94 人	20 人
	11:15～12:45	内郷小学校	54 人	16 人
11 月 1 日 (金)	13:50～15:10	瑞穂中学校	166 人	22 人
11 月 14 日 (木)	13:30～15:05	田尻小学校	360 人	30 人

2. 学校等からの主な意見等

○保育園

- ▶ バス乗車までの待機時間の工夫が必要と感じた。
- ▶ 避難バックは事前に準備をして確認をしていたが、実際行ってみることで、必要な持ち物が見えてきた。しかし、本当に避難となると持ち物もきりがなくらいに色々出てくる。どれだけ避難先に備蓄があるのか気になる所である。
- ▶ 当園の施設に児童クラブもあるが、そちらの児童がいた時の避難方法及びヨウ素剤等はどうなるのか明確にしてほしい。
- ▶ 未満児のバス避難時にチャイルドシートが人数分ない。
- ▶ 一斉メールの内容を事前に用意しておき、災害時にすぐ使えるようにしておくとい。

○小学校・中学校

- ▶ バスに市職員が同乗しないため、安定ヨウ素剤の服用指示がどのように出されるのか気になった。
- ▶ 待ち時間が多いので、子どもをリラックスさせ安心感を与える必要がある。
- ▶ 引渡し時間に少し間に合わないので体育館で待たせてほしいというような問い合わせがあった場合はどうすれば良いのか。
- ▶ 保護者学校間で簡単に連絡がとれるシステムがあると良いと思った。
- ▶ 引き渡しカードの紛失が多く、引き渡す際もカードを探すのに少し時間がかかってしまったため、引き渡す際の確認方法を変更した方がよいと思った。
- ▶ 避難に相当の時間を要することが考えられる。保護者、学校、市とそれぞれやり取りしながら、また、子どもたちのトイレ等の配慮をしながら移動することのイメージができない。
- ▶ 職員全員でタブレットを使って名簿の確認ができるようになっていてありがたい。Excelなどで名簿を管理でき、簡単にチェックするだけで集約できるようなシステムがあると便利だと思う。

3. 訓練で見た課題と対策

・継続した訓練の実施について

【課題】令和2(2020)年度から引渡し訓練を開始し、今年度でP A Z内の学校等は全て訓練を行った。しかしながら、U P Z内は訓練未実施の学校等が残っているため、訓練を実施する学校数を増やしながら、実施していく必要がある。

【対策】訓練計画を作成し、学校等と調整を行い、計画的に訓練を実施していく。

・事前の原子力防災講座の実施について

【課題】児童等の原子力防災に関する理解促進を図るために、原子力災害時の避難を体験するだけでなく、事前に避難方法等の説明し、訓練効果を高めていく必要がある。

【対策】引渡し訓練の実施前に児童等を対象に原子力防災講座を実施する。

4. 訓練の様子



学校での保護者への引渡し



引渡しできなかった児童等のバス避難訓練の様子

令和 7（2025）年度

1. 実施日時及び参加人数

日程	訓練時間	訓練会場	児童等	教職員
7 月 10 日(木)	14:10～15:50	第三中学校	205 人	16 人
9 月 11 日(木)	13:30～15:30	比角小学校	437 人	40 人
9 月 12 日(金)	14:10～15:40	南中学校	80 人	19 人
9 月 19 日(金)	14:10～15:40	北鯖石小学校	94 人	16 人
10 月 10 日(金)	13:50～15:10	荒浜小学校	194 人	22 人
		松浜中学校	79 人	14 人
10 月 16 日(木)	15:20～16:55	柏崎保育園	68 人	19 人
10 月 17 日(金)	15:10～16:55	とうぶ保育園	58 人	15 人
10 月 28 日(火)	15:20～16:55	北条保育園	28 人	14 人
11 月 7 日(金)	13:30～15:10	枇杷島小学校	205 人	15 人

2. 学校等からの主な意見等

○保育園

- ▶ 保護者に引渡すまでの時間が長いため、子どもたちを不安にさせないよう対応を考える必要があると感じた。
- ▶ 確実な引渡しのため、同姓同名の場合にはクラス名と名前をはっきり伝える。
- ▶ 職員間の連携と、予期せぬ事態が発生した場合の臨機応変な対応が求められると感じた。
- ▶ 引渡しができず園で待機する園児が多かったり、職員の人員が不足したりすることを考えると、マニュアルに沿って対応できるか不安である。
- ▶ 原子力防災訓練に関心の低い保護者が多いと感じた。訓練の重要性を周知して実施できるとよい。

○小学校・中学校

- ▶ 保護者、学校、自治体で訓練をしたことでシミュレーションもできた。子どもたちも事前学習を経て訓練を行ったので、真剣に落ち着いて行動していた。
- ▶ 中学校区で訓練することは実際に即することができよかった。引渡し方法は保護者の混乱を招かないよう統一したほうがよいと感じた。
- ▶ 訓練に参加し、具体的な動きや担当の役割を確認できた。しかし、地震や津波などの災害とは異なる点に戸惑った。児童等、保護者に対し、望ましい対応について学んでいきたい。
- ▶ 季節や気候によって臨機応変に対応することが大切だと感じた。
- ▶ 教育委員会からの連絡は職員室で対応したが、児童や保護者の様子が把握しにくい。管理職の携帯電話、もしくは業務用の携帯電話や I P 電話などで連絡できるネットワークが構築されるとよい。
- ▶ 実際には市職員と様々な場面で連携していくこととなるが、どのようになるのかまだ分からず、不安がある。

3. 訓練で見た課題と対策

・継続した訓練の実施について

【課題】令和2(2020)年度から引渡し訓練を開始し、保育園、小学校及び中学校において、順次訓練を実施しているところである。しかしながら、UPZ内は訓練未実施の学校等が残っているため、訓練を実施する学校等数を増やししながら、実施していく必要がある。

【対策】訓練計画を作成し、学校等と調整を行い、計画的に訓練を実施していく。

・事前の原子力防災講座の実施について

【課題】児童等や保護者の原子力防災に関する理解促進を図るために、原子力災害時の避難を体験するだけでなく、事前に避難方法等の説明し、訓練効果を高めていく必要がある。

【対策】引渡し訓練の実施前に児童等を対象に原子力防災講座を実施する。

4. 訓練の様子



学校での保護者への引渡し



引渡しできなかった児童等のバス避難訓練の様子